

令和 2 年 11 月 24 日現在

機関番号：23703

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04139

研究課題名（和文）コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究

研究課題名（英文）Study on the Possibility of Recording and Remembering the Disaster through Community Radio

研究代表者

金山 智子（Kanayama, Tomoko）

情報科学芸術大学院大学・メディア表現研究科・教授

研究者番号：40383971

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、これまでの先行研究で明らかにされてこなかった災害の記憶継承におけるコミュニティFM放送の役割について探求することを目的とし、定性調査を実施した。結果、コミュニティ放送局は災害発生時から災害の記憶継承について意識的であり、時間経過に伴い、記憶の捉え方は変容しながらも、その時のコミュニティに向けて記憶の伝え方を模索していることが考察され、新しい災害により災害の記憶を更新しながら、災害放送として、記憶の継承へとつなげていることが知見として得られた。また、コミュニティFM放送が世代を超えた記憶の継承のための儀礼的空間を生み出し、被災者という想像の共同体を構築していることも示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、先行研究でほとんど調査されてこなかったコミュニティFM放送による災害の集合的記憶の構築と継承という役割について明らかにし、これまでの災害発生から復興という流れに災害という視点を加え、災害放送という新しい捉え方を提示した。この新たな知見はコミュニティメディア論において貢献できると考える。そして、今後のリスク社会におけるレジリエンスを強化していく上で、コミュニティFM放送による災害の集合的記憶の継承と、声によるアーカイブ構築という実践は、研究者のみならず、コミュニティラジオ実践者や地域住民にとってもその重要性が認識されていくことにつながると考える。

研究成果の概要（英文）：This study explores the role of community radio in the memory of disasters, which has not been studied in previous studies. Through in-depth interviews with community FM broadcasters, the results revealed that community broadcasters have been aware of disaster memory transfer from the time of the disaster and were seeking ways to communicate to the community at the time made over time. Findings also showed that the practice of community FM broadcasters was passing on the memories of disasters to the next generation, while updating the memory of disasters with new disasters. It was also indicated that community FM broadcasts generated a ritual space for the intergenerational transmission of memories and the reimagining of “Us, the disaster-survivors’ community.”

研究分野：コミュニティ・メディア

キーワード：コミュニティラジオ 災害文化 集合的記憶 記憶の継承 災害放送 コミュニティメディア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 2013年に大規模自然災害等に強い国土及び地域づくりを目指す国土強靱化基本法が施行され、行政の防災強化がすすめられている。メディアの震災報道も増え、「防災は何にも増して重要」という世論が強まる中、震災の記録と記憶をいかにアーカイブし継承していくかが重要な課題となっている。震災の記録と記憶が防災や減災に活用することが主流になる一方で、本来、大震災の経験は個々人の体験であり、当事者の小さなアーカイブをどのようにうみだしていくが必要であることが指摘されている

(2) 地域の集合的記憶はコミュニティの過去を意味付け、個人の日常的な経験を共同体の未来へとつなげていく上で重要であり、メディアは過去を解釈するツールとして機能すること、地域の記憶の共有することは地域アイデンティティの形成と強化であること、そして、時空間を超えて個人の体験を共有する上で、物語という通路を通して経験者と非経験者が心で結び合う心的結託が震災の記憶にとって必要であることが、先行研究で明らかにされている。

そこで本研究では、コミュニティ FM 放送を通して語られる災害の記憶が、地域コミュニティの人たちの集合的記憶となり、地域コミュニティに世代を超えて継承されていくのではないかとという問題意識をもつに至った。

2. 研究の目的

(1) 本研究ではコミュニティ FM 放送で語られる個人やコミュニティの災害の記憶が、いかにコミュニティラジオを通して共有され、地域の集合的記憶としてコミュニティで構築され、そして、災害の記憶がラジオを通して次世代へと継承されていくのか、インタビュー調査や参与観察をもとに探求することを目的とした。

(2) 研究結果をもとに、これまで防災から復興までという一連の過程に焦点があてられてきたコミュニティ FM 放送の役割について、災害が繰り返される災後社会という視点を加えることで、災害前から災害後までの長期に渡る視野をもって、リスク社会におけるコミュニティ FM 放送の役割について再考を行なった。

3. 研究の方法

(1) 1995年から23年間に発生した大規模災害被災地を対象に24のコミュニティ FM 放送局にインタビュー調査を実施した。インタビューデータをもとに災害別の分析や災害発生から災後の期間別に分析を行った。

(2) 被災地にて、記憶継承に関する活動や施設での参与観察を実施した。

(3) 東日本大震災被災地のコミュニティ FM 局 27 局が 2018 年から 2019 年までに放送した震災関連のレギュラー番組と 311 の追悼特別番組を分析した。

(4) 2011 年から 2018 年まで継続されている災害や復興に関する 3 つ番組（福島、宮城、岩手の各 1 局）を対象に、ナラティブ分析を実施し、コミュニティラジオというメディアにおける個人の記憶のナラティブについて分析を行った（分析結果の報告は 2021 年を予定）。

4. 研究成果

(1) 本研究では、これまでの先行研究で明らかにされてこなかった災害の記憶におけるコミュニティラジオの役割について探求することを目的とし、定性調査を実施した。その結果、被災地でのコミュニティ FM 放送がコミュニティの集合的記憶とレジリエンスを維持する役割を果たすことを明らかにした。本研究では、コミュニティ放送が世代を超えた記憶の継承のための儀式的空間を生み出し、ある種の想像の共同体が構築されていることも示唆した。

(2) 地元のコミュニティ放送局を中心に始められた追悼イベントの長期的な実践が、震災の経験者と未経験者をつなぎ、地域コミュニティにおいて震災の集合的記憶の伝承の場となっていることを事例分析から明らかにした。また、震災イベントがその地域コミュニティにとって文化的な活動となり、地域の多世代の人たちの集合的記憶となっているという新たな知見も得られた。また、被災したコミュニティだけでなく、他の被災地との記憶の共有や分有が、被災地のコミュニティ放送局同士のつながりをもとに発生していることは、震災の記憶の伝承のひとつの新しい形であり、メディア・イベントの記憶継承における可能性を提示した。

(3) 本研究では、コミュニティ FM 放送局は災害発生時から災害の記憶の継承について意識的であり、放送活動を通じた継承が実践されていることを明らかにした。時間の経過に伴い、災害の記憶の捉え方は変容していくが、その時々コミュニティに向けた伝え方をしていることが考察された。コミュニティ放送局の実践は、次世代へ継承し、新しい災害により災害の記憶を更新しながら、記憶の継承へとつなげていることも知見として得られた。

(4) これまでのコミュニティラジオに関しては、災害発生から復興という一つの流れにおいて、放送も非常時から平常時へと戻ると捉えられていたが、災後という視点を加えることで、コミュニティ放送局の災後放送という役割を明確化し、災害発生から災後という新しい捉え方を提示したことに意義がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 金山智子	4. 巻 9 (2)
2. 論文標題 災後・災間におけるコミュニティ放送による記憶の継承	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会情報学	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 KANAYAMA, Tomoko & OGAWA, Akiko	4. 巻 38 (2)
2. 論文標題 Collective Memories of Disaster through Community Radio: A Case Study of the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 情報通信学会誌	6. 最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金山智子	4. 巻 5
2. 論文標題 震災の集会的記憶と地域のメディア・イベントー阪神・淡路大震災の事例からー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第5回 震災問題 研究交流会 研究 報告書	6. 最初と最後の頁 28-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 KANAYAMA, Tomoko & OGAWA, Akiko
2. 発表標題 The Role of Community Media under Nuclear Emergency Conditions in Fukushima
3. 学会等名 International Association for Media and Communication Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金山 智子
2. 発表標題 震災の記憶と記録の装置としてのコミュニティラジオ-阪神淡路大震災の事例から
3. 学会等名 第5回震災問題研究交流会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KANAYAMA, Tomoko & OGAWA, Akiko
2. 発表標題 Community Radio as Apparatus to Remember Disaster: Case studies of the Great East Japan Earthquake
3. 学会等名 International Association for Media and Communication Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KANAYAMA, Tomoko
2. 発表標題 'Policy, Regulation and Media Laws and impacts on community radios'
3. 学会等名 4th AMARC Asia-Pacific Regional Conference of Community Radios (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小川 明子 (OGAWA AKIKO) (00351156)	名古屋大学・情報学研究科・准教授 (13901)	